



称津昌広糖尿病病
内分泌内科部長

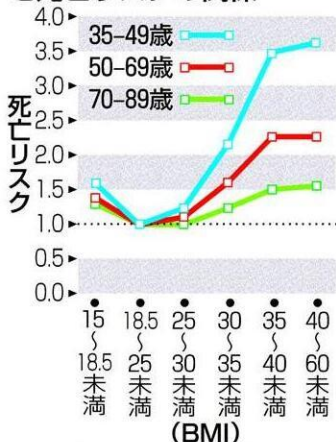
糖病病内分内分泌科部長の
称津昌広医師によると、二
つの注射薬はすでに糖尿病

る。
行つてきた生活習慣の改
善指導と合わせ、肥満症に
悩む人たちの支援に力を入
れる。

医療 最前線 県立中央病院から 〈318〉

山梨県立中央病院は、肥
満に伴う健康障害がある肥
満症患者への新たな治療法
として、注射薬「セマグル
チド」「チルゼパチド」の
導入を進めている。従来か

東アジア人の肥満の度合いと死亡リスクの関係



※各年代BMI18.5以上25未満を1とした
場合の死亡リスク。Lancet(2016)の
補足データを引用して称津医師が作成

減らしたりする効果も期待
されるという。
同病院はこれまでも肥満
症の患者に、運動や食事な
める体格指数(BMI)が

病気リスク軽減へ注射薬 肥満症新たな治療法導入

患者への治療薬として使わ
れている。血糖値を下げる
「インスリン」の分泌を助
けるだけでなく、脳の満腹
中枢に作用して食欲を抑え
たり、胃や腸の動きを遅ら
せて満腹感を高めて体重を
も十分な効果が得られない

35以上か、BMIが27以上
35未満で、肥満に伴う高血
圧や脂質異常症などの健康
障害が二つ以上ある場合が
条件だ。同病院の外来・入
院患者では1割程度が治療
対象になる可能性がある。
称津医師は「決して標準
体重に戻れるような、魔法
の薬ではない。保険適用さ
れても比較的高価な薬なの
で、ずっと使い続けるのも
経済的な負担になる」と説
明する。

場合、注射薬の治療対象と
なり得る。体重(キ)を身
長(センチ)の2乗で割って求
める体格指数(BMI)が
称津医師が国外研究の補
足データを引用して作成し
た資料によると、35と49歳
の東アジア人では、BMI
が35以上40未満の場合、B
MI18・5以上25未満の人
と比べて死亡リスクが約3
・5倍に上る。「さまざま
な病気につながる肥満症の
改善を図りたい」と語る。
一方、薬に頼りすぎると
も良くないという。薬の効
果による体重の減少幅は10
第2、4火曜日に掲載し
ます